

2022 年度学生生活調査（学修時間・行動調査）報告書

2023 年 3 月 10 日

医学部 I R 室

1. 調査概要

1-1. 調査目的

本学医学部学生の学修・生活に関する実態を調査することを目的とした。

1-2. 調査項目

調査項目は、生活時間（学修時間、行動調査）について、独立行政法人日本学生支援機構「学生生活調査」を参考にして作成した。

1-3. 調査対象

医学部 1～6 年生 724 名を対象とした。

1-4. 調査方法

2022 年 9 月 30 日～11 月 30 日において、Web(AIDLE-K)により記名式の調査を実施した。

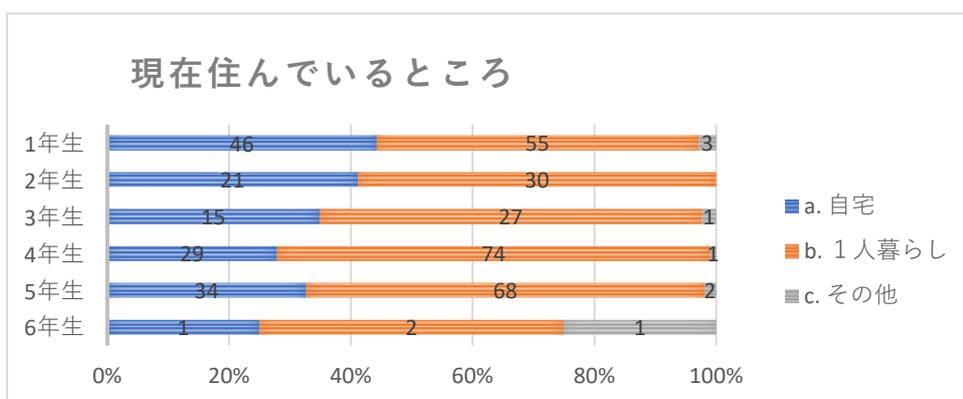
1-5. 回答者数と回収率

1 年生から 6 年生まで 410 名が回答した。内訳は、1 年生が 104 名（回収率 75.9%）、2 年生が 51 名（回収率 42.9%）、3 年生が 43 名（回収率 39.8%）、4 年生が 104 名（回収率 90.4%）、5 年生 104 名（回収率 91.2%）、6 年生 4 名（回収率 3.1%）であった。

2. 結果

I. 住居

住居に関しては、一人暮らしが 62.4%、自宅が 35.6%であった。

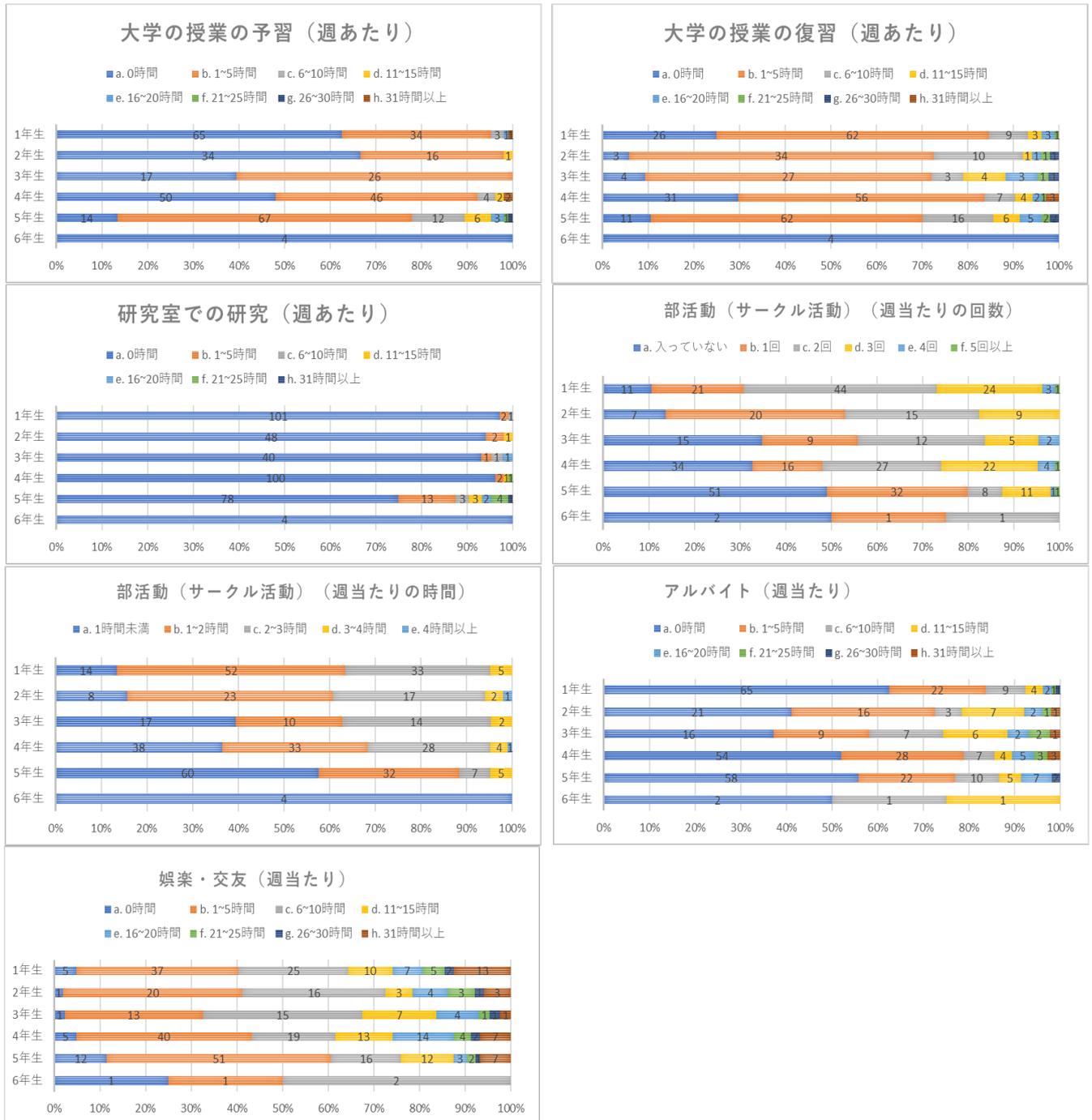


II. 学生生活の状況

授業の予習にかかる時間（週あたり）は、0時間が44.9%、1～5時間が46.1%、6～10時間が4.6%であった。復習にかかる時間（週あたり）は、0時間が19.3%、1～5時間が58.8%、6～10時間が11.0%であった。研究室での研究（週あたり）は、0時間が90.5%であった。1時間以上（週あたり）研究を行っている学生は9.5%であった。

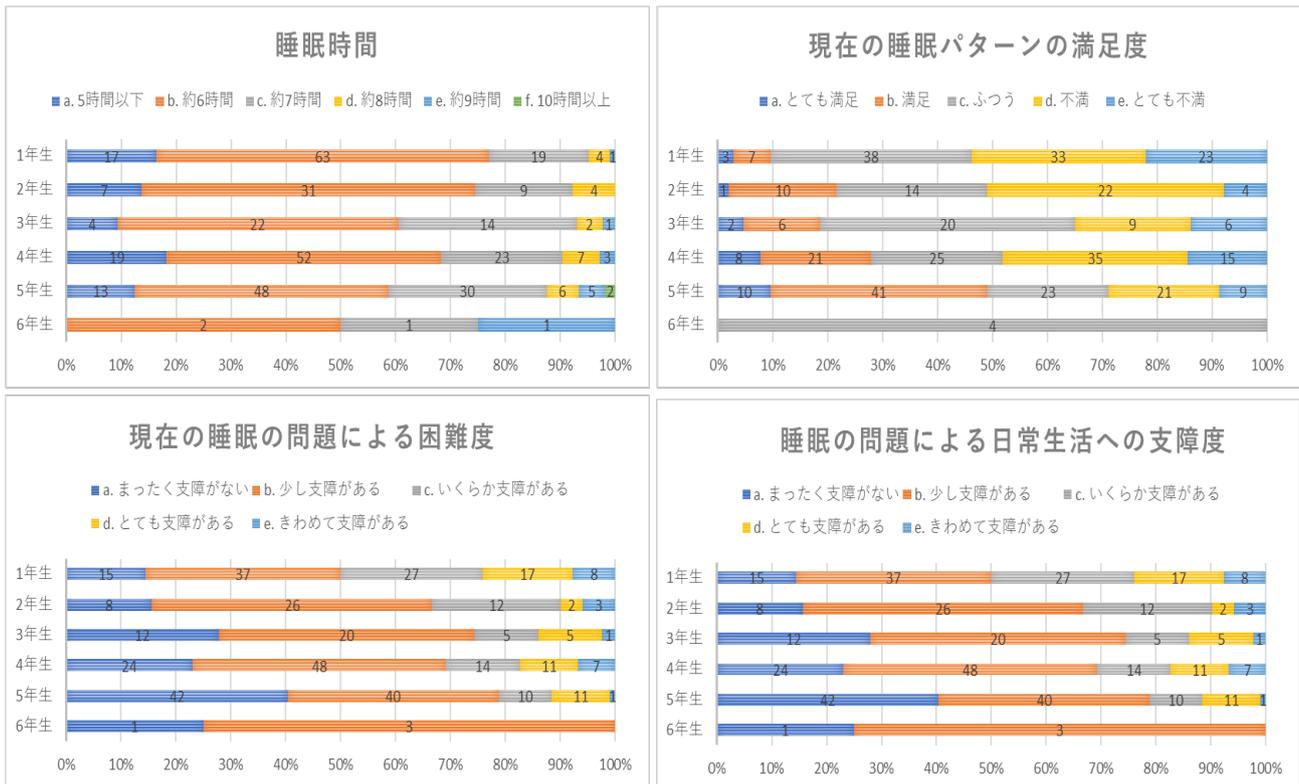
部活動については、29.3%の学生が部活に入っておらず、67.6%の学生は、1～3回の部活動を行っていた。また、1回あたりの時間は、1～3時間で60.7%であり、3時間以上は4.9%であった。

アルバイトについては、0時間が52.7%、1～5時間が23.7%であった。16時間以上の学生は8.0%であった。娯楽・交友については、1～5時間が39.5%であった。



III. 睡眠について

睡眠時間は約 6 時間の割合が 53.2%と最も多く、5 時間以下の割合は 14.6%であった。学年別の睡眠時間 5 時間以下の割合は、1 年生 16.3%、2 年生 13.7%、3 年生 9.3%、4 年生 18.3%であった。また、現在の睡眠パターンの満足度においては、「不満」と回答した学生が 29.3%であり、「とても不満」とする学生は 13.9%であった。睡眠の問題による困難度であるが、「とても困っている」および「きわめて困っている」と回答した割合を合計すると 12.0%であった。また、睡眠の問題による日常生活への支障度は「とても支障がある」および「きわめて支障がある」が 16.1%であった。



3. まとめ

医学部 1 年生から 6 年生の学生を対象とし、学生生活調査を実施した。学生生活に関しては、授業の予習にかける時間(週あたり)は、0 時間が 44.9% (45.1%, 2021; 50.4%, 2020; 65.9%, 2019)、1~5 時間が 46.1% (48.5%, 2021; 41.4%, 2020; 29.9%, 2019)、6~10 時間が 4.6% (4.3%, 2021; 5.4%, 2020; 3.1%, 2019)であり、復習にかける時間(週あたり)は、0 時間が 19.3% (12.4%, 2021; 15.8%, 2020; 23.1%, 2019)、1~5 時間が 58.8% (49.8%, 2021; 52.9%, 2020; 40.4%, 2019)、6~10 時間が 11.0% (17.6%, 2021; 16.9%, 2020; 12.4%, 2019)であった。

睡眠時間に関しては、約 6 時間の学生が 53.2%(51.5%, 2021; 46.0%, 2020; 49.9%, 2019)と最も多く、5 時間以下の割合は 14.6% (12.9%, 2021; 11.2%, 2020; 16.4%, 2019)であった。

今年度の学生生活に関しては、前年度に比べて対面講義を全員に対して再開するなど、コロナ以前の講義形式に戻りつつある年度となった。来年度においても学修時間・生活行動のデータを引き続き分析することで、ポストコロナにおける学修時間・生活行動の経年変化を検証する。